

もくじ

▽国際会議報告	1
▽研究部会レポート	3
▽大会報告	4
▽若手の会レポート	5
▽PANewsより	6
▽今後の学会関連行事	6
▽from Editors	7

【国際会議報告】

第10回国際生理人類学会議終了報告

国際担当 原田 一（東北工業大学）
恒次祐子（森林総合研究所）

第10回国際生理人類学会議は、Alan Bittles 教授 (Centre for Human Genetics, Edith Cowan University, Perth) のお世話のもと、12カ国、95名の参加により、plenary 2題、oral 30題、poster 36題の発表があり、滞りなく終了しました。

会議長：Alan Bittles 教授
会期：2010年9月9（木） - 12日（日）
場所：Esplanade Hotel Fremantle,
フリーマントル, オーストラリア

メインテーマ：Peoples and Places
サブテーマ：

- 1) Physiological variation and adaptation
- 2) Genetic variation and adaptation
- 3) Chronobiological variation including secular trend
- 4) Bio-cultural adaptation including technological adaptability

プログラム：

9月9日（木）

登録, ウェルカム レセプション
IAPA 役員会議

9月10日（金）

セッション 1: Human adaptability and health
招待講演

セッション 2: Physiological responses to temperature

セッション 3: Physiological sensing techniques

セッション 4: Younger Researcher' Colloquium
IAPA General Assembly

Poster 発表

9月11日（土）

セッション 5: Genetics and human variation

セッション 6: Sleep and human comfort

セッション 7: Aspects of aging

セッション 8: Melatonin and responses to light

Poster 発表

バンケット

9月12日（日）

セッション 9: The human condition

セッション 10: Health and health status

エクスカージョン

(パース市郊外 Kings Park & Botanic Garden)

本文中のメールアドレスは、@を全角に変換してありますのでご注意ください



会場となった Esplanade Hotel Fremantle



会議長 Alan Bittles 教授による開会挨拶

9月9日(木)に開催されたウェルカム レセプションでは、パース総領事佐藤虎男氏の参加、カンガルーやコアラも登場し、盛り上がりました。



ウェルカム レセプションにて

9月10日(金)のセッション1にて、アンデス・チベットなどにおける高地適応研究の第一人者である Cynthia M Beall 教授(米国ケース・ウェスタン・リザーブ大学)による講演では、生理人類学的視点を含めた高地適応に関する活発な議論がなされました。

セッション2からセッション10までの研究発表およびセッション4での若手研究者の発表を含めて、活発に議論がなされ、参加した学生にとっても良い経験になったのではないかと思います。



招待講演者 Cynthia M Beall 教授(左)



各セッションでの研究発表

3日間の昼食はバイキングスタイルで、他のお客さんもいて混んでいましたが、参加者それぞれで話が弾んでいました。



会場であるホテルでの昼食

バンケットは約二時間の食べ放題、飲み放題で、参加者は小学生から高齢者まで、皆さん楽しい時間を過ごされていたようです。



バンケットにて Bittles 教授(中央)を囲んで

会議最終日午後のエクスカージョンでは、パース市郊外の Kings Park & Botanic Garden を訪れ、穏やかな天候のもと、参加者は都市と自然が調和したパース市街を見下ろしながら、オーストラリア大陸の広大さを感じられたことでしょう。

9月10日(金)に開催された IAPA General Assembly では、次期会長ほか役員候補者が紹介され、IAPA 基金(約 US\$5,000) の設立と使用規約を含め、承認されました。

次期 IAPA 役員は下記の通りです。

President Emeritus: H. W. Jürgens
(Kiel, Germany)

President : A. Bittles (Perth, Australia)

Vice-President : A. Yasukouchi (Fukuoka,
Japan)

Secretary-General : H. Harada (Sendai, Japan)

Secretary : Y. Tsunetsugu (Tsukuba, Japan)

Executive :

R. Attenborough (Canberra, Australia)

G. Brush (San Francisco, USA)

D.E. Crews (Ohio, USA)

E. Godina (Moscow, Russia)

T. Katsuura (Chiba, Japan)

C. G. N. Mascie-Taylor (Cambridge, UK)

Y. Miyazaki (Tsukuba, Japan)

J.F.M. Molenbroek (Delft, Netherlands)

L. M. Schell (Albany, USA)

J-Y. Sohn (Seoul, Korea)

S. Watanuki (Fukuoka, Japan)

W. Wang (Beijing, China)

Treasurer : K. Iwanaga (Chiba, Japan)

EAA (European Anthropological Association) の会議が 2012 年に開催される関係から、次回の ICPA は、2013 年開催の予定ですが、2011 年または 2012 年にアジア太平洋地域でのインターコンGRESSを開催する検討がなされています。

【研究部会レポート】

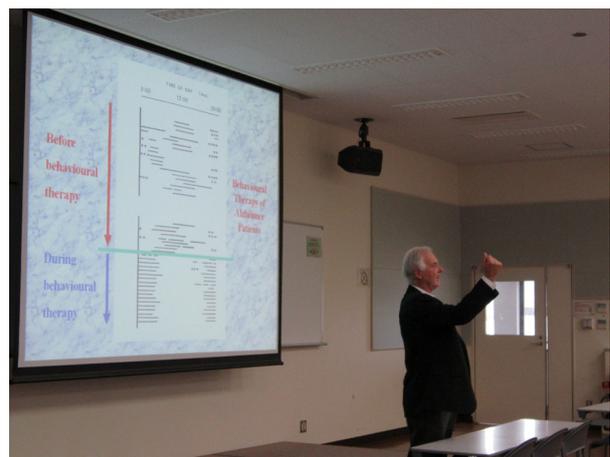
照明研究部会

森田 健
(福岡女子大学)

照明研究部会は長期に渡り休眠状態にありましたが、活動を再開し、9月28日・29日に京都大学環境生理研究会と合同でシンポジウムと公開セミナーを京都大学で開催しました。シンポジウム

(28日)には、イギリス Liverpool John Moores University から Prof. J. Waterhouse 先生を招聘し、”Rhythms in Sleep and Activity”というタイトルで Keynote presentation を行っていただきました。Prof. J. Waterhouse 先生の代表的な研究の一つである、体温リズムへの睡眠や活動の影響とその影響を除去して本来のリズム挙動を捉える試みなどについて講演をしていただき、約 70 名の参加者はそのパワフルな講演から大きな影響を受けました。その他、環境生理研究会から 6 題、照明研究部会から 6 題の、光のヒトへの影響と中心にした発表があり、活発な議論を通してこの分野における現在の研究状況全般について再考する機会になったと考えています。

またこのシンポジウムの翌日(29日)の公開セミナー(参加者約 150 名)では、Prof. J. Waterhouse 先生の “Biological Rhythm in Occupational Medicine and Clinic” という講義が行われ、それに続いて時間生物学分野で長年研究を進められてきた大石正先生(佐保短期大学長、奈良女子大学名誉教授)と Prof. J. Waterhouse により「時間生物学研究の誕生から将来の進むべき道」について対話形式で、生体リズム研究の面白さや研究に必要なことなど、学生を含む若い研究者の方々へのメッセージを語っていただきました。



J. Waterhouse 先生

感性研究部会

樋口重和
(九州大学大学院)

この度、宮崎良文先生（千葉大学）より、本研究部会を引き継ぐことになりました。この機会に部会の名称を「感性科学研究部会」から、「感性研究部会」とシンプルにしました。名称の変更についてご快諾いただいた宮崎先生には感謝申し上げます。名称を変えた理由はふたつあります。本学会の活動なので科学的であることは自明なことなのですが、科学には多くの限界があるのも事実です。科学という言葉に縛られることなく、幅広い視点から感性を捉えてみたいというのが一つめの理由です。もう一つは単純な動機で、自分を駆り立てるために、何か変化が欲しかったからです。

感性研究部会の目指すところは、“人間性の探究”です。1959年11月発行の『みずず』に時実利彦先生が書かれた原稿のタイトルそのままです。佐藤方彦先生（前生理人類学会会長）は、東京大学で時実先生の生理人類学の授業を長年にわたって聴講されたそうです。その印象を以下のように語られています。「お話の内容は8年間ですいぶんと変わりました。＜中略＞。一貫して変わらなかったのは、生理現象やそのメカニズムの説明とともに、これらを人間性の観点から解説して下さったことです」（出典不明）。時実先生の授業を受けることのできなかつた私たちにでも、時実先生の著書『人間であること』（1970年、岩波新書）に“人間性の観点”を見いだすことができます。

時実先生の目指された“人間性の探究”と、佐藤先生から受け継いだ生理人類学を基本理念として、一步でも人間の感性というものに近づければと思います。以下の新体制で臨みますので、何卒よろしくお願いいたします。できるだけ早い時期に第1回目の部会案内を皆様のもとに届けたいと思います。

部会長 : 樋口 重和 (九州大学大学院)
 higu-s@design.kyushu-u.ac.jp
副部会長 : 石橋 圭太 (千葉大学)
幹事 : キム ヨンキュ (九州大学)

【大会報告】

第63回大会を終えて

大会長 岩永光一
(千葉大学大学院)

日本生理人類学会第63回大会は、2010年10月30日・31日に千葉大学けやき会館で開催されました。台風14号が接近する生憎の天候でしたが、大きな影響は受けずに無事開催することができました。参加者数は、事前登録108名、当日参加29名の他、企画セッションの演者の先生方、大会スタッフなどを含めると総勢約165名でした。また、9月にオーストラリアで国際生理人類学会議が開催されたばかりであったにもかかわらず、口演25題、ポスター20題、合計45題の研究発表が行われました。参加いただいた全ての皆様、協賛いただいた企業の皆様に心より御礼申し上げます。

大会では一般の研究発表の他に、「生理人類学の体系—あれから—そして—これから—」と題するシンポジウム（写真）と「人間を理解するという—生理人類学の人間観—」と題する鼎談（ていだん）の、二つの企画セッションを設けました。両者とも、生理人類学の方法論に迫るディスカッションを会員の皆様と共有することを意図して企画しました。シンポジストの安陪大治郎先生、恒次祐子先生、小林宏光先生、安河内朗先生、鼎談の福島修一郎先生、樋口重和先生、そして前会長の佐藤方彦先生のご尽力によって、たいへん充実したセッションになったと自負しています。これらの先生方に、改めて御礼申し上げます。「久しぶりに、生理人類学についてじっくりと考えることができました。」と参加者のお一人から労いの言葉をいただきました。大変ありがたく思うと同時に、これからも生理人類学の薫りを大切に皆さんと共有できる機会を持ち続けていきたいと思いました。

千葉大学が担当した日本生理人類学会の大会は、前副学会長の菊池安行先生による第32回大会、現学会長の勝浦哲夫先生による第50回大会に続く3度目となりました。このような歴史を汚さぬようスタッフ一同気を引き締めて運営に取り組みましたが、行き届かない点が多々あったことと存じます。大会長としてお詫び申し上げます。

次は、2011年6月に福岡で、栃原裕先生（九州大学）のお世話により第64回大会が開催されます。皆様と再会し、生理人類学と本学会の薫りを楽しめることを期待して、第63回大会のご報告とさせていただきます。どうもありがとうございました。

日本生理人類学会第63回大会 留学生特別賞
受賞者：黄 晶石（千葉大学）
発表題目：時間感覚に及ぼす単波長光の影響
— 光曝露の時間経過に伴う変化 —

以上



シンポジウム「生理人類学の体系—あれから—そしてこれから—」

日本生理人類学会第63回大会 発表奨励賞・留学生特別賞について

大会長 岩永光一
(千葉大学大学院)

日本生理人類学会第63回大会 発表奨励賞・留学生特別賞は厳正な選考の結果、下記の通りとなりました。授賞式は第64回大会懇親会時に開催される予定です。

記

- 日本生理人類学会第63回大会 発表奨励賞
受賞者：金城 陽平（九州大学）
発表題目：メラノプシンの遺伝子多型が瞳孔反応に及ぼす影響について
- 日本生理人類学会第63回大会 発表奨励賞
受賞者：神谷 倫子（九州大学）
発表題目：暑いという印象は寒冷暴露時の直腸温を変えるか？

【若手の会レポート】

第17回若手研究者発表会

小崎智照
(労働安全衛生総合研究所)

若手の会は、生理人類学の若手研究者同士の交流を深め、若手の研究の活性化を目的として活動しています。現在の主な活動は学会大会時に行われます「若手研究者発表会」です。今回は、第63回大会の前日に行われました「第17回若手研究者発表会」について、ご報告いたします。

今回は、中崎恭子さん（武蔵野大学大学院）、北村真吾さん（国立精神・神経医療研究センター）、井澤修平さん（労働安全衛生総合研究所）にご発表をいただきました。中崎恭子さんは「仮眠と音環境に関する研究」という題目で、睡眠と仮眠に関する調査結果と、異なる音刺激呈示による仮眠への作用に関する実験室実験の報告が行われました。この発表に対して、調査対象者の属性（学生や社会人）の違い等について質問があり、さらには実験室実験の結果解釈について意見交換が行われました。北村真吾さんは「日周指向性による睡眠恒常性維持機構への修飾」という題目で、生体リズム機構の概要と、日周指向性（夜型朝型）の異なる集団における35時間覚醒実験での生体リズム位相等への作用について発表がありました。この発表に対して、朝型夜型は修正可能か？や朝型夜型のメカニズムの違い等について質問がありました。最後に、井澤修平さんは「唾液中コルチゾールを用いたストレス研究」という題目で、唾液サンプルの採取法に関する方法論からストレス指標であるCAR（Cortisol Awakening Response）に関する研究報告がありました。この発表に対して、CARの生物学的意義やコルチゾール濃度の水準とCARの反応性のどちらが重

要か?といった質問がありました。また、発表会後の懇親会では若手研究者の交流が深められ、非常に有意義な会であったと思います。本会の開催に対して、大会長の岩永光一先生を始め事務局の皆様には多大なご協力をいただきました。この紙面をお借りしてお礼を申し上げます。今後とも若手の会の活動ベースとして発表会を続けていきたいと考えております。



現在、予定されている今後の若手の会の活動は以下のとおりです。

・第18回若手研究者発表会

第64回日本生理人類学会(九州大学)の前日に開催を予定しております。なお、第18回以降の発表者を随時募集しております。現在進行中で研究結果がまとまっていないものでも、参加者からの意見を聞くことができる貴重な機会となると思います。皆様からのご発表と多数のご参加をお待ちしております。

上記を含めた若手の会の行事等については、会員メーリングリストと若手の会メーリングリストでお知らせしております。

メーリングリストも含め上記の問い合わせについては、若林斉(九州大学:waka@design.kyushu-u.ac.jp)までお願い致します。

今後とも皆様のご協力をお願い申し上げます。

【PANews より】

Web版PANews 公開のお知らせ

会報担当 岡田 明(大阪市立大学大学院)
福島修一郎(大阪大学大学院)

学会ホームページでPANewsの公開を開始しました。2010年(Vol. 20)以降の記事(会議録などを除く)のPDFファイルがダウンロードできます。最新号は発行月の翌月初めに順次公開していきます。学生会員への紙媒体での送付はありませんので、ホームページからダウンロードしてご覧ください。なお、学会活動を会員外にも広報するという趣旨でアクセス制限はかけていません。広報誌としてさらに魅力的な誌面となるよう努めたいと思います。会員の皆さまからの投稿やご意見は随時受け付けておりますので、最終ページに記載の編集事務局までお寄せください。

【今後の学会関連行事】

生理人類学談話会

会期: 第3回 2010年12月11日

第4回 2011年3月5日

場所: 東京

連絡先: 工藤奨(芝浦工業大学)

kudous@sic.shibaura-it.ac.jp

第5回研究奨励発表会

会期: 2010年12月18日(土)

場所: 芝浦工業大学豊洲キャンパス

研究棟5階大会議室

連絡先: 工藤奨(芝浦工業大学)

kudous@sic.shibaura-it.ac.jp

日本生理人類学会第64回大会

大会長: 栃原 裕

会期: 2011年6月11日(土)・12日(日)

会場: 九州大学大橋キャンパス

「多次元デザイン実験棟」

プログラム概要:

0) 理事会・若手の会(6/10)

1) 一般口演(6/11・12)

- 2) ポスターセッション (6/11・12)
- 3) シンポジウム I, II (6/11・12)
- 4) 懇親会 (大学食堂)
- 5) 施設見学 (環境適応研究実験施設, 居住空間実験住宅など, 6/11)
- 6) 総会 (6/12)
- 7) 学会各賞授賞式 (6/12)

大会事務局 (問合せ先) :

〒815 - 8540 福岡市南区塩原 4 - 9 - 1
九州大学大学院芸術工学研究院 栃原研究室
日本生理人類学会第 64 回大会事務局
E-mail: jspa64@design.kyushu-u.ac.jp
Tel/Fax: 092 - 553 - 4522

今後の予定 :

シンポジウム I, II のタイトル : 2010 年 10 月末
大会案内郵送 : 2011 年 2 月初旬
演題締切 : 2011 年 4 月 11 日(月)
抄録締切 : 2011 年 5 月 10 日(月)

第 18 回若手研究者発表会

会期 : 2011 年 6 月 10 日(金)予定 (第 64 回
大会前日)
連絡先 : 若林斉 (九州大学)
waka@design.kyushu-u.ac.jp

日本生理人類学会第 65 回大会

大会長 : 小谷賢太郎
会期 : 2011 年 11 月 5 日(土)・6 日(日)
または 11 月 26 日(土)・27 日(日)
会場 : 関西大学

日本生理人類学会第 66 回大会

大会長 : 草野洋介
会期 : 2012 年 5 月中旬予定
会場 : 長崎 (場所未定)

from Editors

次号 (1 月末発行) の原稿締切は 12 月 31 日 (金)

▽6 ページでもご案内しましたように, 学会ホームページからの PANewsPDF 版ダウンロードの運用を開始いたしました. ご活用ください.
▽今回の PANews で Vol.20 が完了となります.
すなわち, PANews はこれで 20 年間継続していることとなります. Vol.21 ではそれを記念する企画を考えてみたいと思います.
今後ともよろしく願いいたします.

会報担当理事 : 岡田 明 (大阪市立大学大学院)
福島修一郎 (大阪大学大学院)

PANews 編集事務局 :

〒558 - 8585 大阪市住吉区杉本 3 - 3 - 138
大阪市立大学大学院生活科学研究科
居住環境学講座 岡田明
e-mail akira.pegasus@nifty.com
〒560 - 8531 豊中市待兼山町 1 - 3
大阪大学大学院基礎工学研究科
生体計測学講座 福島修一郎
e-mail fukushima@me.es.osaka-u.ac.jp